

令和 2 年 第 3 回定例会 一般質問

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
1	三 澤 公 雄	<p>1. 八雲町のゴミ処理はこのままでイイのか!?</p> <p>2. 現状の性教育で十分か?</p>	<p>平成 15 年から 13 市町で始めた渡島広域でのゴミ処理（クリーン渡島）は、広域処理が可能な規模で整備し、平成 29 年には建設費の償還を終えた。しかし、長寿命化と CO2 排出量削減を目的とした設備更新の為、平成 30 年に再投資をして、これの償還終了年は令和 14 年となっている。</p> <p>今、岩村町政は“持続可能なまちづくり”を標榜している。そうであるならば、自前でゴミを処理できる焼却施設を持ち、その雇用も焼却時の熱エネルギーも有効に活用する事を目指すべきだ。また、仕組みの作り方に工夫をすれば、施設の固定資産税や法人税などの税収増も期待ができる。</p> <p>漠然と償還が終わるのを待つのではなく、「次」を睨み、持続可能で次世代にもアピールできる施策を選択して欲しいのだが…町長の見解を伺う。</p> <p>コロナ禍においての長期休校期間中に性に関する相談件数が倍増したというニュースを聞いた。また「緊急避妊薬を薬局で買えるように」という運動をされている方々を紹介する記事では、推進派と反対派の両方から「性教育の充実を!」という言葉が踊っていた。</p> <p>そういった中で、八雲町の性教育の現状を調べた時、ご多分にもれず、物足りなさ以上に、これで良いのか?と感じた。今、必要な性教育は単に体の変化を教えるのではなく、心の成長も含めた教育、そして女性の地位がまだまだ低い日本においては人権教育の性格も併せ持つと思う。私は物足りなさを感じたが、教委はどう感じているのだろうか?</p> <p>一方で、八雲総合病院にはもう 20 年以上も個人の立場で性教育に向き合い教壇に立っている方々がいる。近隣町にも有効な講師として認知されているのだが、町内においては一部の学校でしか活用されていない。しかも、この活躍は個人の努力で支えている。これでよいのか?</p> <p>多忙な教師に複雑で放置され続けているこの問題をゆだねるよりも、専門職で毎年研修・研究を重ねている外部講師を更に活用し確実にニーズに合った教育を行ったほうが上策ではないのか!?</p>	<p>町 長</p> <p>町 教 育 長</p>

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
2	佐藤智子	<p>1. サランベ川対策について</p> <p>2. 防災人材の育成を</p>	<p>サランベ川には砂防ダムが3か所もある。砂利がそこでせき止められて、下流に流れていけないため、川底が掘れて、がけが出来ている。大変、危険であり防災上問題である。大雨災害がひん発する昨今、町道や農地にも影響が及ぶかもしれない。海の汚染にもつながり水産資源の死滅を招く。これらを守るための対策をどう講ずるのか。</p> <p>7月23日付け日本農業新聞に「頻発する豪雨」“防災人材の育成急務”という論説記事が載った。『「想定外だった」と言わずにすむように各地の災害の教訓を共有し地域で備えるべき』としめくくっている。</p> <p>9月1日付け赤旗日刊紙には「防災の日」特集として高齢者や障がい者の避難支援を考える上でケアマネジャー等と協力する大分県「別府モデル」が紹介されている。これらも参考に、人材育成プランを立てるべきと思うがどうか。また、避難先で女性や母子のケアに心を配れる女性人材を育てることも急務だ。まずは、年に1回以上は防災に詳しい講師を呼んで講演会を開くなど、研修に力を入れてはどうか。</p> <p>以上、防災人材を育てる必要性をどのようにお考えか伺う。</p>	<p>町長</p> <p>町長</p>

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
3	赤井睦美	1. ラストスパート！ 焦点はどこに？	<p>2期目の町政もあと1年となりました。「青年舎」や「木蓮」といった株式会社の設立、サーモン養殖、企業版ふるさと納税の導入、更には給食費や18歳までの医療費の無償化、保育料の軽減等々を見ると、『雇用の創出につながる産業の活性化、若者が安心して子育てが出来る環境の充実が重要』とおっしゃった2期目最初の執行方針が実現しつつあると実感されているのではないのでしょうか。</p> <p>また、医療分野においても、国保病院の建て替え、総合病院の感染対策の充実、医師確保など、医療の実現に向けて進んでいることも感じられます。今年度は役場庁舎等の基本計画策定にも着手され、八雲町の進化を感じられていることと思います。</p> <p>そこで、次のことをお伺いします。</p> <p>① 就任当初より岩村町長は、自らトップセールスマンとして様々な種を蒔くとおっしゃっています。今はその種から多くの芽が出てきていると思いますが、2期目残り1年、特にどこに焦点を絞ってまちづくりを進めて行くのか、考えをお聞かせください。</p> <p>② 岩村町長はこの7年間の間に、持ち前の商人力で『収益を得られる道筋』を作ってきました。今後、地方交付税の減少が懸念される所であり、非常に重要な事です。と同時に、それらを活かすのは、教育力だと思います。</p> <p>今、商工業においては、「木蓮」で人材育成を目指しておりますが、小中学生に対しても一次産業や観光などを活用した八雲町ならではの教育が必要だと思いますが、考えをお聞かせください。</p>	町長 教育長
		2. ゴミゼロ社会の実現に向けて	<p>統計八雲によりますと、ごみの年間総排出量は人口減少に伴って年々減ってきています。</p> <p>しかし、その量を単純に処理人口で割って一人当たりになると、八雲地域では2007年で一人337kgだったのが、10年後の2017年には371kgと34kg増えています。</p> <p>熊石地域では、294kgだったのが、349kgと55kgも増えています。一人1日換算では、八雲地域は1,016g 熊石地域では956g。全国平均は918gですから、八雲町は平均を大きく上回っています。</p> <p>長野県は「チャレンジ800」ごみ減量推進事業を行い、2018年には811gと5年連続ごみ排出量が少ない都道府県1位になっています。2020年度の目標は、1日一人当たりごみ排出量795gだと長野県のホームページに掲載されています。</p>	町長

		<p>町長も執行方針の中で「ごみゼロ社会の実現は、長年の課題であり、究極的な目標でもあります。八雲町としても目指すべき目標としています。」とおっしゃっています。</p> <p>ごみの排出量を減らすことで、処理費の軽減を図ると共に、プラゴミ減量で地球環境汚染を防ぐことにもつながり、持続可能なまちづくりの実践となります。</p> <p>ごみの減量化実現にはいろいろ課題もありますが、八雲町でも子どもから大人まで幅広い世代を対象に、ごみの減量化に向けた活動に取り組んではどうかと思いますが、考えをお聞かせください。</p>	
--	--	---	--

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
4	横 田 喜 世 志	<p>1. 交通事故を少しでも無くすために</p> <p>2. 新生児にも支援を</p>	<p>一時期話題になった「デイライト」はだいぶ廃れてしまいましたが、流通定期便や新幹線トンネル工事に入っているダンプ車等の半数程はデイライトを励行しています。視認性等からも公用車へデイライトを励行してはいかがか伺う。</p> <p>八雲町が新型コロナウイルス感染症対策で、総額約3億5千万円に及ぶ施策を行った事はよろこばしいこととあります。子どもに対して「子ども・子育て」関連で子育て世帯への臨時特別給付金による国の支援が有るが、特別定額給付金において、他町で行っている基準日以降に出生した新生児に対する給付についても、八雲町として独自の施策を行えないか伺う。</p>	<p>町 長</p> <p>町 長</p>